

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371000203		
法人名	有限会社 げんき		
事業所名	グループホーム げんき		
所在地	岡山県新見市下熊谷1554-2		
自己評価作成日	平成29年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成29年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「安らぎと安心元気な笑顔」をキャッチフレーズに、毎日のレクリエーションを通し心穏やかに、ゆったりとした時間を過ごしていただけるよう職員は精一杯の支援に努めている。
 ・利用者の方の出来る事に目を向け、出来ない事への支援を行っている。
 ・小規模の施設だからこそメンタルケアに力を入れ、そっと傍に寄り添いさり気無い声かけや、支援をしている。開設以来、食器は陶器を使用し、家庭的な雰囲気の中で、朝食、昼食、夕食は職員が手作りしている。体調や個々にあった食事を心がけている。経営自らが生産した安心で、美味しいお米を使用し、毎回炊き立てのご飯を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな地で一人ひとりの入居者が混乱や不安のないように、個室(使い慣れた家具や身の回り品を持ち込み)・共同の居間・食堂・風呂・トイレなど安全に配慮し、入居者が職員に声をかけ易い雰囲気に努めています。また、動物とのふれあいや地域の方々との連携を密に行い、入居者の楽しみや思いで作りの日々を大切にしています。職員は資質の向上に努める為、内外の研修に参加しスキルアップに努め、職員間の連携を図れる様に職場環境にも配慮しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・当ホームの地域における役割り。それに基づく職員の役割りや、認識を月1回の職員会議で行っている。また、毎朝のミーティング等で話し、実践につなげている。	全職員が理念を共有し、よりよいケアと資質向上に向けて、毎日ミーティングを行い実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新見公立大学看護科の学生実習受け入れを年間通じて行っている。また、地元の子供さんや、父兄の方々と花植えの活動をしてつながりをもっている。秋祭りでは地域の大人神輿や子供神輿、獅子舞が来て交流となっている。	実習生の受け入れを行うことで認知症への理解を学生に深めてもらっています。夏祭り、秋祭りなど地域の方々と協働してイベントを開催し入居者の楽しみや喜びとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新見公立大学看護学科の学生の実習受け入れを通し認知症ケアについての受け入れを行ない、地域貢献している。また、地域の方々や、子供さんとの交流を通して認知症の方の理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に一度は、運営推進会議を行っており、行政からの報告や指導をしていただいている。また、入居者や、家族の意見に耳を傾け、日々の生活支援に活かしている。	市職員をはじめ入居者・家族・地区民生委員などが常に参加し、季節に応じた活動報告や事故など正直に報告し、それぞれの立場の方々からの意見を参考にして、サービス向上に努めている様子が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・常に連絡・相談・報告・指導をいただいている。「小規模多機能居宅型介護施設連絡会議」や「医療・介護多職種連絡会議」に参加し、市職員の方や、他施設との情報提供を行っている。	行政機関と連携を密に行うことでケアの質の向上に繋がっています。地域内の研修会に参加し、情報収集や連携を図るよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての研修は行なっている。 ・当ホームでは日中の玄関は施錠していない。	身体拘束について定期的に研修をすることによって、職員同士の気づき(言葉掛けに対する意見など)を共有し、大切にしながら身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待についての研修は行なっている。 ・当ホームにおいて、身体的、言動的虐待、心理的虐待のないよう常日頃より職員に徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・権利擁護、後見人制度人についての研修は行なっているが、当ホームとしてそれを活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・常日頃より、ご家族の方とは連絡を密に行なうようにしている。 ・文章連絡は勿論、家族会等に説明し同意承諾等をいただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時はもちろん、敬老会・夕涼み会・忘年会・家族会を開催し都度ご意見、ご要望をお聞きしている。また、苦情窓口も設けている。	入居者・その家族が意見・要望また、苦情を言いやすいように苦情窓口は地区の民生委員に依頼するなど、入居者・家族の意見が出しやすい環境を心掛けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議・ミーティング等、あらゆる機会を通じ職員の意見を聞き、生かしている。	代表者は職員のカンファレンスを実施し、ストレス軽減や働きやすい職場環境にするよう又、それが入居者の安全・安心となり、運営改善の反映に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員個々の得意分野・又は能力に応じ、業務内容の配分を心がけ、ストレスの軽減に勤めている。勤務希望も聞いており無理のない勤務状況としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内・外の研修にはできるだけ参加させている。資格取得についても施設として、できるだけ配慮をしている。保健所主体の出前講座を活用し、なるべく多くの職員が参加することで、レベルアップに努めている。また、講師の方をお招きする事で、当施設を知っていただき閉鎖的にならないようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・多職機能連絡会議や、市内グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設連絡会議への参加している。多職種との交流等でネットワークを保ち、情報交換し、施設のレベルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人、ご家族は勿論、当ホーム入居前のケアマネージャー担当の方に情報を頂き、ご本人の心身の不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の思いをお聞きし、そのお気持ちに添えるような生活支援が出来るよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・各、居宅介護支援事業所のケアマネージャーや病院、老人保健施設当の担当者との情報交換をしている。その上で、ご家族に必要な情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・支援する側、される側でなく、職員は入居者の視線に立ち主体性を大切にし、支援している。お互いが手伝いや、助け合う事に対し、感謝の気持ちを伝えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の生活状況や、ご本人の思い、不安等を聞かせていただき、当ホームがご本人とご家族とより良い関係が保たれるようパイプ役となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・生活歴・趣味などをお尋ねし、当ホームへ持って来られる物は持参していただいている。思い出の地域には、機会を見て外出でお連れしている。時間がある方には、ご家族との外出もしていただいている。また、ご家族は勿論、知人友人に面会にも来て頂いている。	馴染みの人や場所に向くだけでなく、入居者の馴染みの物を持参してもらって、思い出を共有出来るような支援に努めています。また、遠方の家族が入居者と一緒に過ごせるよう宿泊できるようにしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・メンタルケアを、ご利用者同志で助けあっている場面もあり、馴染みの関係もみられる。常にデイルームは和やかで、笑顔の絶えない雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・外出や、外泊は自由で面会時間も自由である。いつでも誰でも来所しやすい雰囲気作りを努めている。また、状況に合わせた相談は、随時受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・その人らしさが引き出せるよう又、ライフスタイルを大切にしたケアに努めている。	入居前の日々の生活ぶりを丁寧に聞き取り、表情や会話から希望や意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活暦・家族暦は情報を密に取り入れ、それに近い状況での生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個別ケアで行なっている。また、体調の変化、精神状態の変化等により、そっと傍に寄り添いその時々適切な対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・時々の状況に応じてご家族と話し合い、ご本人、ご家族の思いに添った生活支援プラン計画を立てている。入居者の意見を尊敬しつつ、担当職員が快適な生活支援になるよう職員一同が協力している。	家族の面会時や又、便りなどで意見を聞いたり、入居者のホームでの健康状態や生活ぶりなどの情報伝達を行いながら、介護計画を作成している様子が家族アンケートの結果で窺うことができます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケアプランの中に記録は残している。毎朝のミーティング及び、常時意見交換をし、ご利用者個人のケア内容に活かしている。また、3ヶ月・6ヶ月で見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・他施設・病院との連携を密に行い協力頂き、その時々ニーズにあった対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・必要な時、必要な資源を活用させていただき、援助して頂けるよう、日頃より連絡を取り合い、安全かつ豊かな生活の維持に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診は勿論、些細な変化があれば、受診するようにしている。なるべく、在宅からのかかりつけ医に継続受診し、安心していただいている。歯科、耳鼻科、診療内科等の専門医の受診支援も行っている。	専門医の受診も含め、納得の得られる医師の受診が受けられるよう支援しています。家族の協力を得ながら、適切な医療を受けられるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・定期的に看護師に情報交換・意見交換を行なっている。受診時は職員が同行し、医師に、正確な情報提供が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・常日頃より病院の関係者の方との関わり、情報交換・指導を頂いている。 ・新見医療連携情報共有書も活用し入院時等に提出している。医療・多職種連携会議に参加し情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・かかりつけ主治医や、ご家族と協議している。双方に納得がいくよう話し合い、その方に適した病院、施設、ターミナルケアについては話をしている。	重度化するにしたがって、家族の意向も変わっていくので、連絡を密にとり医療機関との連携の下支援に取り組むよう努めています。	長年、一緒に暮らした人を看取るという事は、職員にとってメンタル面で非常にきついものがあると想像します。職員同士、連携して支えあえる体制を作られることを今後も期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内・外の研修に参加させている。又、随時に行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練や、消火訓練を行っており、また、地元の消防団にも有事の時には協力体制をとってもらっている。	事業所で作成している、災害マニュアルの表紙裏には入居者一覧があり、そこには名前・移動手段(独歩・車いす使用など)・特記事項(持病など)が記され、有事の時に職員以外の人が手助けできるようまとめ、地域の方の協力が得やすいようにしています。	消火器の使い方や地域の方の協力が得られるなど徹底した避難訓練を実施されている中、日常生活場面を想像し、入浴中だったらどうするか、おむつの交換中だったらどうするか具体的な場面想定でのシミュレーション訓練を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳のある生活を心がけている。生活歴、職業歴、をふまえ人格を尊重している。特に、入浴や、排泄介助など、個別な対応やさりげない声かけをしている。	生活歴で知り得た得意なこと(元大工さんだったり、歌の好きな方など)は、話題に盛り込んだり披露してもらうことで、生きがいを持ってもらい、プライバシーを尊重した声掛けや対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定される事を大切に、出来ない方には選択していただく等で工夫している。出来ない事に目を向けず出来る事への支援に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々の生活の中で体調や気持ちの変化に早期に気づき、傾聴し、寄り添うよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・男性、女性その人らしさの、おしゃれを個別に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・施設裏にある畑の野菜を入居者と一緒に収穫し、食材に加えている。また、季節感を味わえるよう献立や食材を工夫している。 ・毎月、嗜好調査を行い好みの物をたべていただいている。また、自ら言えない方の好みを日頃より調査し、献立や、おやつで提供している。	食材は地産地消を心掛け、食事形態を一人ひとりの症状に応じた工夫ができています。また、庭にある紅葉を器に添えるなど彩ある食事を楽しめるようにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々の歯状況、身体状況に合わせた食事の内容に心がけている。また、摂取量をチェックし記録してる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後、ご自分でできる方はして頂き、出来ない方には声かけや介助している。ナイトケア後は、義歯洗浄し、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表により目配り、気配りし、個々に対応し排泄の声かけや、介助や支援を行っている。	排泄チェック表を参考にしながら、体質・体調・薬の影響など考慮しながら一人ひとりの自立に応じた支援に取り組んでいる様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・日中、夜間とも水分補給に心がけている。日中に身体を動かす運動を多く取り入れるようにしている。また、食事や、副食、おやつ等に工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・季節の行事等で変更する場合もあるが、週3回の入浴としている。また、本人の体調や、気分により日にちを変更するなどして、対応している。	季節に応じた香り(ゆず湯・しょうぶ湯など)を楽しみながら入浴できるよう工夫しています。本人の体調に合わせて入浴や清拭を行い清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個室にはいつでも休んでいただけるよう、環境を整えている。個々の居室らしさも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診時に内服薬の説明書を頂き、個人ファイルで管理している。ご家族の面会時個人ファイルをお出しし、受診情報や、使用薬等がいつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除や、洗濯物干し洗濯たみを役割にされている方もおられる。おやつ作りや、季節ごとのイベントをしている。また、室内でのゲームや外出支援もしていて、入居者も楽しみにされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節ごとの行事や、ドライブ、見学等に出かけている。また、出来る限り本人の希望に添うようにしている。	外出では、道の駅などで買い物や外食を楽しめる様努めています。病院への受診後コンビニでおにぎりを買って食べたりして気分転換に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・今のところ、ご本人にお金を持って頂くことはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・知人や、親族からの電話や手紙のやりとりはできるようにしている。いつでも連絡できることで心身の安定につながっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・建物の構造をいかし、不快臭無く、室温、湿度共に快適に過ごしていただいている。季節に応じた壁飾り、季節の花、自ら作成した作品、思い出の写真などの掲示で違和感のないよう、家庭的な雰囲気作りに努めている。	共用空間では日時が解るよう時計・カレンダーがあり、トイレなどの表示もわかりやすく、入居者が迷うことなく使えて、安心して過ごせるよう工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居間で過ごされる時は、テレビを観たり、個々の顔なじみの入居者と会話を楽しまれている。個別のソファや椅子に座られ和やかに過ごされる。食卓も個々の椅子に座られ、ご自分の居場所づくりとなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家庭より椅子や小タンス、ケース等持って来られ、ご本人の快適な空間となっている。また、ご本人が安全に過ごせるようベットの位置や、タンスの位置など工夫している。	安全と住み心地の良い居宅づくりに努め、思い思いに自立した暮らしが出来るよう配慮した工夫が窺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の目印としてネームプレートや、トイレの場所の目印をし工夫している。手摺を設置し、自力で移動・行動できやすくしている。建物はオール電化、段差無しで安全の確保に努めている。		